◇プログラムの概要と年間スケジュール

6月 7月 8月 9月 10月

大学での学生選考 ※必ずしも学生が第一希望の企業とマッチングできるとは限りません

科目Ⅰ 第2ターム（8週）

（主に）大学での事前学修 週1コマ ＋ 集中講義

- ●成長目標・行動指針の設定と学生同士の相互フィードバック
- ●企業・業界研究、調査した内容のディスカッション
- ●企業人ゲストによる講話
- ●プレゼンテーション研修
- ●受入企業からの事前課題
- ●実践的マナー講座、先輩の体験談　など

個人課題は主に授業時間外で行い、授業時間は発表やグループワークを中心に行います。

科目Ⅱ 実習は夏期休業期間中

実習（インターンシップ） 8～9月中の3～5週間程度

日程・実習内容は受入企業によって異なります（他大学の学生と一緒に実習を行う場合もあります）。実習の一部は有償（もしくは交通費や宿泊費等の実費のみ支給）で行われます。実習期間中、学生は「活動日報」を提出し、企業の担当者からフィードバックを受けます。

これまでの具体的な実習内容の例	
金融業	社員からのレクチャー、決算説明会同行、投資における注目セクターの調査～プレゼン発表
製造業	質改善やコストダウンを目的とする製品の設計基準の調査・作成
印刷業	市民参加型の事業におけるイベント運営、参加者のアンケート等を基にした新企画の立案
食品小売業	学生が行う顧客アンケートや導線調査を基にした、改装店舗のレイアウト検証・提案

振り返り研修（9月末）・レポート作成

研修では受講学生全員が集まり、それぞれの実習での経験・学びを振り返ります。

成果報告会（10月末～11月前半頃）

学生各自がプレゼンテーションの準備を行い、実習での活動(成果)や今後の自身の目標などについて、受入企業担当者・教員・他の学生の前で発表します。

新潟大学　教育・学生支援機構　連携教育支援センター
〒950-2181　新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
TEL　025-262-6074　Mail　renkeikyoiku@adm.niigata-u.ac.jp

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
発行：平成30年3月

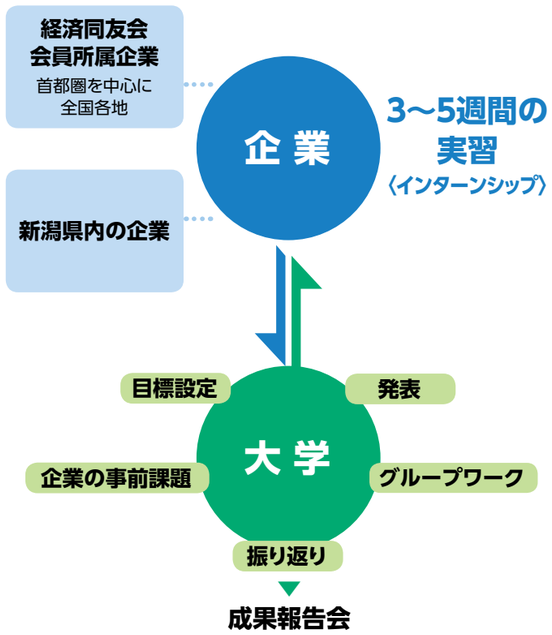
真の強さを学ぶ。
新潟大學
大学教育再生加速プログラム

1・2年生対象

長期・企業実践型プログラムⅠ・Ⅱ

「学生」と「社会」の双方にとって価値ある学び

本学の理念「自律と創生」のもと、長期間の企業実習と大学での学びの意味づけを通じて、
学生が、社会で通用する自分自身のものさしを鍛え、
残りの大学生活で主体的に学んでいくための土台を整えます。



Point 1 1・2年生限定

「企業実践型」といっても就職のためのプログラムではありません。まだ大学生活前半の1・2年生だからこそ、「大学でもっとこんなことを学びたい、経験したい」という、社会から照らした自分の目標を学生が深く考えるる起点となります。

Point 2 約1ヶ月の企業実習

企業での実習は約1ヶ月。決して短くはありません。学生は、実際に業務を任されたり、課題に挑戦したりする中で、失敗や悔しい思いをすることも多々あります。でもそれだけ本気で取組むからこそ、短い経験では得られない学びや成長につながります。

Point 3 大学でも共に学び合う

企業実習に「行って終わり」ではありません。単位を伴う大学の教育プログラムとして、実習の前後、期間中を通じて大学が学生の学びを支援します。受入企業との密な連絡調整のもと、学生同士が互いに切磋琢磨しながら学ぶ環境を整えます。

学生が変わる。大学が 変わる。社会が変わる。

受講学生の声

法学部2年(参加時)
藍原 由佳さん
実習先：出光興産株式会社

■ 参加を決めた理由を教えてください。

数日間のインターンシップではできないような人間関係を構築でき、かつ長期にわたりエネルギーをかける分やりがいを感じられるだろうと考えたからです。また、インターンシップの事前・事後の研修によって、大学側が学生のインターンシップを全力で支えてくれると思いました。

■ 企業でどんな実習を行いましたか?

法務課に配属され、最も多かった業務は、実際に事業を進めている部署(事業部)からの取引先との契約に関する相談に対し、法務課が契約書を読み込み回答するという、契約書の検討業務です。その他に、社員が関わる打合せに同席させていただいたり、法務課主催の研修に一緒に参加して知識を深めたりしました。

■ 自分にとって一番大きな学びは?

企業法務の現場を経験して、法律に関わる仕事の多様性を理解し、将来の進路を法律関係の職業の中でもより具体的に考えなければならないと感じました。また人との繋がりを大事にする姿勢を学び、今後は自発的に他人と関わる機会を増やしたいと考えています。

工学部2年(参加時)
長谷川 穂高さん
実習先：株式会社キッツ

■ 参加を決めた理由を教えてください。

工学部で自分が携わっているロボコンプロジェクトでこれから設計を行うにあたり、この経験が役に立つと思ったからです。実際の物づくりの現場ではどのようなことを考えていくのかを特に学びたいと考えていました。大学の授業だけではわからない設計の現場を知ることで、これからの学習が何の役に立つのかをイメージして学ぶことができるため、理解しやすいと思います。

■ 企業でどんな実習を行いましたか?

ASEAN向けに販売する鋳鉄弁の設計基準作成というテーマのもと、複数の工業規格や大学の授業で使う教科書から、バルブの各部における強度の計算式を求めました。

■ 自分にとって一番大きな学びは?

設計部の一員としての業務から、設計は「製品ができたらそれで終わり」ではなく、製品をより良いものにしていくことも設計者の役割であること、チームで明確化した1つの目標に向かうためにも、個人として自分の専門性を極めることの重要性などを学びました。将来は「1つの製品に強い設計者」を目指し、大学でもより多くの機体の設計を行っていきたいです。

人文学部1年(参加時)
井上 咲子さん
実習先：株式会社三幸(三幸製菓)

■ 参加を決めた理由を教えてください。

働くことに興味があったのですが、どんな職業に就きたいかは漠然としていたので、「働く」ということを学びたいと思い履修を決めました。

■ 企業でどんな実習を行いましたか?

企業が抱えている4つの課題から「障がいのある方が働きやすい環境づくり」を選び、ハンドブックとポスターを作成しました。障がい者雇用関連のセミナーに参加し、実際に働いている障がいのある方への面談にも同行させていただき、最終的に企業の方にプレゼンテーションを行いました。

■ 自分にとって一番大きな学びは?

私は1年生ということもあり、事前学修では自分の意見を言うことができませんでした。しかし、事前学修とインターンシップを通して自分の意見が他の人の学びになることが分かり、徐々に自分の意見を言えるようになりました。また、受け入れてくださった企業の方々は私達の成長に繋がるよう時間を割いて多くのアドバイスをくださり、講義形式の授業だけでは得られない経験ができました。

経済界の声

受入企業

アクシアルリテイリンググループ
原信ナルスオペレーションサービス株式会社
人事教育部教育企画室　室長
小山田 淳 様

■ 学生受入れの「意義」と「難しさ」

受入れる意義は多くありますが、一番は職業観の幅を広げる、つまり自分が仕事とどう関わっていきたいかを実際の企業で先輩社会人と一緒に体験することで、引き出しを増やしてもらうことです。それが就職後のミスマッチの防止あるいは固定的業種イメージの払拭につながっていき、企業側の受入れ甲斐につながると思っています。難しさはその意義を受入れ側の社内でも共有していくことと感じています。

■ 大学への期待

もっとより多くの企業(学生側の選択肢)にも参画いただき、多くの学生に長期的なインターンシップを体験してもらいたいです。

■ (プログラムを通して)学生に身に付けてほしい力

「考え続ける」こと、そして考えたら「やる」人です。コミュニケーションも協調性も大切ですが、それはやり始めた後に必要なスキルです。まずはやらないと始まらないので、遠慮せず実行してほしいです。そのためには、軽傷ですむ学生のうちからたくさんのことをやって、多くの失敗経験を重ねてほしいです。

経済同友会会員所属企業と大学とのマッチング

公益社団法人 経済同友会
Japan Association of Corporate Executives
公益社団法人経済同友会　参与
藤巻 正志 様

経済同友会が2016年から始めた教育効果の高い独自のインターンシップは今年で3年目を迎え、新潟大学はじめ関係者から好評を博しています。次代を担う人材育成には産学が真に連携したキャリア教育が重要で、それも採用とは時を隔てた早い段階から実施することがポイントです。早期に気づきを得た学生が自らキャリアデザインを描いて学修に精励すれば資質・能力は大きく高まり、社会で活躍して自己実現を図っていけるとの思いです。大学は正課として位置づけ単位を付与、期間は原則1か月以上、プログラムは企業と大学が内容を合意した上で実施することを求めています。また、宿泊費や交通費は企業が負担するなど、経済面から学生を支援していることも大きな特長であり、ご尽力下さっている会員企業の方々に深謝申し上げます。これまで参加した多くの学生が、「企業という場で実社会に学び、他流試合を通して多様な価値と触れ合う得難い経験」と述べていることから、今後、この取組みを広く社会と共有し、拡大・発展していくことができれば幸いです。

大学

新潟大学副学長
(学生支援・就職支援担当)
教育・学生支援機構
連携教育支援センター長
箕口 秀夫

「デザイン思考」を育む

「デザイン思考」(Design thinking)という言葉を最近よく耳にします。デザイン思考は、異なる背景の人たちが意見を出し合うことで、普段使っていない人の能力を活性化させ、主体性や協業の気持ちを引き出し、これまでの価値観や行動を深化、進化させる発想法です。この科目はこのデザイン思考を育む科目です。科目の履修をとおし、大学入学は目的ではなく手段であると認識する、1・2年生の意識改革を目指します。その意識改革が、どのような志を持って、どのように自己実現をしていくのかのキャリア意識を涵養していきます。

Q ▶▶▶ 具体的な実習先企業は?

A 新潟県内企業および経済同友会会員所属企業(首都圏を中心とした全国各地)を対象として、大学担当者が密な打合せを行い、実習内容について相談のうえで実施しています。経済同友会会員所属企業については、同会がマッチングの仲介を行っています。

Q ▶▶▶ 実習内容と受入人数は?

A 実習内容は受入企業によって異なりますが、多くの場合、学生がその企業のミッションに貢献すべく、実際の業務の一部を任されて行う、事業内容に即した課題に挑戦する等の実習に臨みます。一企業の受入人数は1～3名です。

Q ▶▶▶ 実習に伴う費用負担や報酬は?

A 特に実習場所が首都圏等の場合、交通費・宿泊費などの費用は基本的に受入企業が負担し、学生による大きな金額の負担はありません。企業によっては、実習で行う業務に対して報酬が支払われる場合もあります。

Q ▶▶▶ 学生が参加するまでのプロセスは?

A 学部を問わず、1・2年生を対象に受講学生を募集します(実習内容によって、学部・専攻を指定する場合もあります)。大学が応募書類・面談等で学生の選考を行い、長期のプログラムに臨む意欲や参加希望企業を確認したうえで、参加が決定します。